

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年12月24日 (2010.12.24)

【公表番号】特表2007-501677(P2007-501677A)

【公表日】平成19年2月1日 (2007.2.1)

【年通号数】公開・登録公報2007-004

【出願番号】特願2006-529814(P2006-529814)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/10 Z

A 6 1 B 3/10 R

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年11月2日 (2010.11.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

横方向許容移動幅のレンズ焦点距離への依存性の測定には、フォーカスレンズの焦点面における虚像対象物点（高さ y ）の結像を観察する。この仮想対象物の A P D 絞り縁への結像では、

【数 1】

$$y' \approx \frac{f_{APD}}{f_{FOK}} y$$

が、したがってまた横方向の移動には

【数 2】

$$y \approx \frac{f_{FOK}}{f_{APD}} y'$$

が成立する。

ただし、

【数 3】

$$f_{FOK}$$

【数 4】

$$f_{APD}$$

はそれぞれフォーカスレンズ、APDレンズの焦点距離、
y は、横方向の許容移動幅、
y' は、絞り半径
である。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

上記比率

【数 5】

$$f_{FOK} : f_{APD}$$

の最適値は約 1.5 ～ 4 の範囲である。

測定領域の拡大にもかかわらず、角膜および水晶体からの信号が必ずしもすべて同時に検出し得ない場合は、測定を数回行い、それらの結果を適切に組み合わせて必要な測定信号をすべて含む総合結果を求める。

そのような方法の可能性が図 3 ～ 5 に描かれている。

図中の符号は次のものを表わしている。

ACS：角膜前面

PCS：角膜後面

A L S : 水晶体前面
P L S : 水晶体後面